

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
千葉県	【上記以外(献血推進キャンペーンの実施等)】	①愛の血液助け合い運動(7月) ②はたちの献血キャンペーン(1月～2月) ③千葉県公務員職場献血推進月間(8月) ④千葉県献血推進強調月間(2月) ⑤学生サマーキャンペーン ⑥学生クリスマスキャンペーン	各種広報媒体(県民だより、市町村広報資料、千葉日報、千葉テレビ、BayFM78、県ホームページ)を活用したり、献血会場でティッシュ等の配布を行いながら400ml全血献血及び成分献血への理解と協力を呼びかけるとともに、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう周知を図った。	①音楽隊などの活用によるアトラクションの強化 ②キャンペーン会場の見直し
神奈川県		・県独自に実施する秋の献血キャンペーンについて、昨年に引き続き横浜F・マリノスに協力を依頼し、ポスターと新たにラジオメッセージを作成した。ラジオメッセージについては、血液センターの協力のもと、県内のコミュニティーラジオ局に放送を依頼した。	・人気のある若手選手の起用により、ポスターの評判はよかった。しかし、県内にJリーグのチームが4チームあるため、地域性等を考慮したキャラクターの選択が必要である。	・キャンペーンの広報にあたっては、県内全域を対象とするか、あるいはターゲット(地域)を絞ったものにするか、より効果的となるよう見直す。
新潟県		○ 新聞への血液在庫状況掲載による県民への情報提供(⑩新規)		
山梨県		県及び各地区ごとのキャンペーンの実施 ・愛の血液助け合い運動、はたちの献血キャンペーン ・献血地域キャンペーン	啓発物品の配布、CM放映、主要駅へのポスター掲示。地域ごとのモデル市町村での啓発活動の結果、合計894名の献血協力が得られた。	
長野県		○ 献血体験ルームの実施 大型店に3日間、県下3会場でイベント実施	・若年層及び初回献血者の拡大と意識の高揚 ・実施できる会場が限られてしまう。	
東京都		・愛の血液助け合い運動(7月) ・はたちの献血キャンペーン(1月から2月) ・献血団体表彰 ・街頭献血で予めチラシを配付し、持参した方に記念品を差し上げる。	東京都広報掲載、地下鉄等ポスター掲出、映画劇場CM上映、成人の日式典(区市町村実施)用チラシ配布により、献血に理解と協力を求めた。 街頭の予定に変更が多く、事前PRができない。	

(注)内容については簡潔にとりまとめること。

(注)「取組の概要」欄：平成18年度新規事業に◎印を表示し、既存事業と区別すること。また、参考として、平成19年度新規事業についても併せて記載すること。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
富山県	【若年者確保について】	◎献血に関するTV-CMを放映	若年層の視覚に訴えることにより、献血意識を啓蒙する	
石川県		◎①小学生を対象とした献血ふれあい事業の実施 ②中学生に対する献血教育推進 ③高校における献血指導者の研修会 ④県内高校1年生に啓発パンフレットの配布 ⑤大学祭での献血キャンペーンの実施	①小学生90名を募集し献血の学習と見学を実施。 ②中学生を対象とした献血ポスターコンクールの実施。優秀作品を献血普及啓発資料として活用。 ③高校の養護教諭を対象とした献血の普及啓蒙。 ④献血のできる年齢に達したときの、献血の正しい知識の普及啓蒙 ⑤大学祭において啓発資料を配付すると同時に採血を実施。	400mL献血推進のため、高校生献血の在り方として、入学時の体験献血(200mL)と卒業献血(400mL)の導入。
福井県		①「はたちの献血」キャンペーン中に、若年層を含め安定した集客力のある大型ショッピングセンターに臨時採血所を開設 ②学生献血推進連盟の活動による献血の実施と広報活動	①6日間の臨時採血所の設置で、793人の献血実績。	・若年者確保には有効な取組であり、20年度も引き続き計画に組み入れる予定。
静岡県		①高校生を献血広報ボランティア「アポちゃんサポーター」に委嘱し、保健所とともに地域、学域において啓発活動や献血広報を実施した。 ②高等学校養護教諭と意見交換会を開催した。	①若年層の献血思想の定着、初回献血の実施がなされた。 ②高等学校等の連携が図られた。	高校生を献血ボランティアに委嘱し、広報活動を行うことにより、若年層に対する献血思想の定着が図られている。
愛知県		①若年層に対する知識、普及及び啓蒙	①高校2年生全員、大学生及び新成人を対象としたパンフレットの配布 ②小学生の親子を対象とした献血ゼミナールの開催 ③学生クリスマスキャンペーンの実施	①②③若年層への献血思想への普及
愛知県赤十字血液センター		愛知県学生献血連盟加盟校18大学の献血ボランティア担当者の合同による年3回の合同献血と各大学での学内献血時の窓口になるように育成指導する。	年3回の献血者数865名 学内献血延べ51回2,492名	献血初回学生の確保に繋がる学内献血の実施
三重県		①高校生、大学生を中心とした協力組織(県費から当該連絡協議会に業務委託) ②学生献血推進協議会の開催	①各キャンペーンにおける啓発活動にける協力、血液センターの見学会、勉強会 ②学生献血推進協議会(3回開催)、その他各キャンペーンの協力等についての意見交換会	特になし
滋賀県		①広報・啓蒙 ②献血学習事業	①中・高校生を対象として、国および県の啓発資料(ポスター、冊子)を活用し啓発を実施。 ②小学生を対象として、船の中で啓発学習を実施。	JRCを対象とした啓発を行ってきたい。

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
京都府	【若年者確保について】	①京都府学生献推進協議会への支援と協働 ②大学等への働きかけによる大学献血の推進 ③若者向け広報媒体の活用による啓発の実施 ④子ども連と保護者を含めた献血施設見学会の実施	若年層自らがキャンペーン等を通じて献血の重要性を広く訴え、若年層の共感を得ることにより、若年層献血を推進する、また子どもの頃から献血・命の大切さを知ってもらう。	献血不適格者に対する栄養指導等サービスの提供
		◎①18歳からの献血キャンペーン2007を実施 府内の高校3年生約15,000人を対象にパンフレットを配布、1月～3月に献血ルームへの来所を要請。 ②若年層を対象とした献血啓発活動の実施 ・◎赤十字青少年トレーニングセンターにおいて小中学生96人に対し献血クイズ大会を実施 ・◎献血ルーム京都駅前において、小学生とその保護者対象に、施設見学・クイズ等の実施 ・京都府学生推進協議会、第一日赤看護学校の血液管理センター見学会実施	①リーフレットを配付し、献血未経験者への普及・啓発にはつなげた。実際の献血ルームへの来所者数は低く、内容を見直す必要がある。 ②夏休み期間中に小中学生を対象として行った。参加者の感想も概ね良好であったため、今後も継続する価値がある。 管理センター見学会も、献血経験はあってもその後の血液の流れが理解でき勉強になったと、良好な結果であった。	若年層、特に18歳以上への広く献血PRするための広報資料の充実が必要である。
大阪府		◎平成18年3月に開設した献血携帯サイトを広く周知するため、ウェブアドレスを記載したクリアファイルを作成した。 ・若者向け情報誌への広告掲載	若者が献血情報に触れる機会を増やすことができた。	今後とも、若者を対象とした媒体を通じて啓発を行っていく。
大阪府赤十字血液センター		①小学生を対象とした「献血おもしろゼミナール」の開催(平成8年より実施) ②大学生を対象としたセミナーと施設(血液管理センター)見学 ③高校生を対象としたセミナーと献血ボランティア体験学習の実施	①平成18年7月27日～8月8日までの間の8日間開催・参加者数1,896人の参加(保護者を含む) ②平成19年3月12日実施 ・参加者数15人の参加(管内の学生献推進協議会メンバーが主体) ③平成18年8月13日実施 ・参加者数7人の参加(府内の公立、私学の2校の生徒を対象) ・参加高校数が少数であった。	①血液センター施設の受入体制に限界はあるものの、今後は更に教育委員会の協力を得て参加数を増加させたい。(広報関係を含む) ②今後は、血液センター、及び行政のホームページや広報などによって、幅広く若年層の参加を呼びかけていきたい。 ③上記、②と同様の対応を行いたい。
兵庫県		平成16～18年度において、高校生ボランティアを県知事から「献血啓発サポーター」として委嘱し、文化祭等の場を活用して啓発活動を展開した。 平成19年度は知事委嘱を行わず、高校生の自主的な取組としての献血ボランティア活動を支援する。	平成16～18年度の3か年で、延べ70校、422人の高校生が献血啓発サポーターとして校内等において献血啓発活動を行った。 採血車の配車を条件に事業を実施すると申し出た高校があったが、結局、配車されなかったため、事業実施を断念するケースがあった。	地域献血推進団体、大学生等との連携による地域ぐるみの献血普及啓発の実施

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
兵庫県赤十字血液センター	【若年者確保について】	①18歳の献血キャンペーン(県立高校38校) ②友だち紹介(カード)キャンペーン	①高校3年生約1万人にチラシを配付 ②大学、短大、専門学校を中心に約490人の応諾があった。	
奈良県		将来の献血を担う若者に対する献血の意義や必要性の知識普及	啓発物品配布とともに、学校へは若者献血に対する理解と協力を求めているが、学校単位での「高校生献血」の推進は、困難な状況であった。	学校で実施する「高校生献血」は、献血可能となる学生にいち早く日常的善意として気軽に献血に協力するきっかけとなり、若年者確保に大変、有効であるが、18歳以上しかできない400mL献血の推進と相反する。
和歌山県		①高校生の献血推進 ・文化祭や授業での啓発と献血の実施 ◎養護教諭に対する講演会の実施 ◎献血推進ポスターコンクールの実施(展示及び表彰)	①・養護教諭に対する講演会では献血の重要性の理解を深めてもらった。今後も引き続き必要と思われる。 ・ポスター展については、高校生に対し参加型の啓発ができた。	・学校関係者への講演は、学校・父兄の理解を深め、若年者の献血参加の推進につながる。 ・学生ボランティアを増やし活動してもらうことで周囲へ波及効果を生む。
		②◎2卒業献血キャンペーンの実施 ・15秒テレビスポット放送(18回) ・中高生の卒業生に対する啓発 ③大学、専門学校生のボランティアを常時積極的に募集し、400ml献血の普及と参加を依頼	②卒業キャンペーンについて、中高生に意識づけできたと思われるが、期間を検討する必要がある。 ③学生ボランティアの増加とともに400ml献血が増加した。	
岐阜県	①リーフレット作成 中3、高2の学生を対象にリーフレットを配布 ②学校関係者への協力依頼 県内の概ね全ての高校、短大、大学、専門学校を保健所担当者が訪問し、協力依頼 高等学校長会、高等学校保健担当者会で協力依頼	・将来の献血者の安定確保に向けた啓発	・継続実施 ・養護教諭との意見交換会開催(問題点及び効果的な対応等に関する整理)	

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
富山県	【複数回献血者確保について】	初回献血者への葉書の送付	献血の重要性をアピールするとともに、複数回献血への意欲を喚起する	
石川県		①複数回献血クラブのポスター、リーフレットを、大学・事業所、採血現場等で配付 ②健康相談事業(肝炎関係(月1回)、健康全般(月2～3回))の実施 ③ホームページを利用したクラブ員の募集	会員数は、徐々に増えてはいるが計画に達していない。(広報の見直しが必要)	内容の充実を図るため、ホームページの全面見直し(リアルタイム方式)の検討。
福井県		・携帯電話を利用して、あらかじめ登録していただいている方にメールで献血のご案内やキャンペーン用クーポンを配信(複数回献血クラブ・血液センター独自携帯サイト)	・安定した血小板製剤の確保。	・20年度も引き続き計画に組み入れる予定。
静岡県		血液センターが実施する複数回献血協力者確保事業に、県内市町とともに広報を行う等の協力を行った。	複数回献血者の増加	
愛知県		新たな複数回献血者層の拡大及び現在の複数回献血者数の維持	7月、11月に複数回献血キャンペーンを実施し、複数回献血の推進を図る	複数回献血者の増加
愛知県赤十字血液センター		①複数回献血者を献血者全体の35%まで上昇させる ②会報、電子メール等で健康増進や血液に関する複数回献血者への情報提供を行い複数回献血の実施に結びつける	名古屋学芸大学、中部ブロック学生献血ボランティア研修会、名古屋市地域献血グループ懇話会に出向き学生や地域住民を対象に講演会の開催 健康ウォーキング講座の開設2回	
三重県		①献血依頼者に対する電話での依頼 ②定期的にキャンペーンを実施し、複数回献血者を募集 ③HPを随時更新し、バスの配車予定や不足している血液型等の情報を呈示	①各献血会場で献血依頼依頼者の募集 ②血液型不足時に献血依頼依頼者に協力依頼 ③HPによる献血場所、不足血液型の周知、献血メールクラブの会員募集	
滋賀県		・ 複数回献血クラブの設置 ◎ 健康講座の開催	携帯電話、パソコンを利用した献血登録者の募集および複数回献血者に対する健康相談等の実施。	血液在庫不足時および平常時に登録者に対し、機動的・効率的に呼びかけを行うことが可能となる。
京都府		①献血者への継続的な情報の提供 ②複数回献血クラブの組織化	血液製剤の在庫不足時における献血者の確保	本府では、今後4年間の複数回献血者登録の目標値の設定を行った。
京都府赤十字血液センター		①リーフレットの作成 ②◎新規登録会の実施	①5万部作成し、各献血会場で配付した。 ② 献血ルーム、大学献血で実施し約100名の登録があった。	・登録者の取り消しが予想以上に多い。 ・継続して登録者となってもらうために、何が必要かを検討する必要がある。(取り消しをされても献血をされないわけではない)

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
京都府 京都府赤十字血液センター	【複数回献血者確保について】	③◎健康相談事業としてヨガ教室を開催 ④◎情報提供メールの定期的な発信 ⑤◎年1回献血者に登録要請郵便を発送	③ ヨガ教室には延べ約100名の参加があった。 ④登録要請に約150名の応諾があった。	
大阪府 大阪府赤十字血液センター		◎市町村献血推進協議会へ個別に訪問し、献血推進のお願いを行った。 ①「Eメールクラブ」会員募集と会員に対する献血要請、および情報提供の実施。 ②「400mL献血」プラスワンキャンペーンの実施	市町村献血推進協議会の献血への取り組みが向上し ①会員数:4,007人(平成19年4月23日現在) 献血協力要請人数:延べ32,400人 情報提供件数:21件 ②10/1～12/23の期間に400mL献血の協力者に対して期間、会場限定で成分献血か400mL献血の依頼を行った。(キャンペーン期間:12/24～5/15) 献血者数:463人(400mL×412、成分×51人:3/31現在)	今後とも、市町村献血推進協議会へ個別に訪問を行っていく。 ①「Eメールクラブ」会員の増加が必要 リアルタイムな情報提供のための方策を検討
兵庫県 兵庫県赤十字血液センター		7月の「愛の血液助け合い」運動月間及び12月の「私たちの献血」キャンペーン等において、複数回献血についても併せて啓発することとしている。 平成19年度においても同様に実施する予定。 ①『プラス1献血クラブ-HYOGO-』(メールによる献血依頼等)の推進 ②栄養相談事業の実施	市町広報誌(紙)等による献血ルーム、献血会等の紹介。 献血ルームから遠い地域では採血車による献血が唯一の献血手段であり、配車の有無が献血回数に影響する。 ①メール会員募集 (1,350人) ②移動会場、オープン施設 8会場で実施、37人参加	献血会場における栄養指導、住民健診の場における献血啓発等による献血者の確保
奈良県		報道機関への積極的な資料提供等の広報活動並びに街頭献血キャンペーンの実施による普及啓発	恒常的な血液不足状況に陥った場合、資料提供だけでは状況説明の繰り返しになるので、報道機関に取り上げてもらいたい。	広報・啓発には、注目されるような話題性があると効果的である。複数回献血の誘引となるような献血者サービスのあり方を検討するとともに、報道機関に取り上げてもらう工夫をする。
和歌山県		献血登録者の拡大 ・献血登録者に定期的にはがきやメールを送付し献血の案内と協力を求める。	複数回献血者が増加した。	献血登録者に情報を提供することにより、献血を意識づけることで複数回献血者を増やすことができる。
岐阜県		複数回献血の推進 ・複数回献血者クラブの会員募集 ・同一企業へ複数回配車依頼 ・新規献血者に対し再度の献血を勧めるリーフレットを配布	複数回献血者の増加	継続実施

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
富山県	【企業等組織的な献血の確保について】	献血推進協議会のメンバーに商工会議所、経営者協会等の県会長を充てている	継続的な献血協力	
石川県		渉外活動等において、情報の収集を行い新規、複数回協賛企業の確保に努めている。	新規協賛企業を確保。	引き続き協賛企業の確保(掘り起しを含め)を図る。
福井県		・県庁、市役所等での定期的な献血の実施 ・新規事業所の開拓 ・事業所担当者との連携強化	・安定した血小板製剤の確保。 ・職員の理解度の向上、献血者数の増加。 ・企業の地域貢献が明確になり、継続的な協力や緊急的な計画に対応できる。	・血液を確保する上では非常に有効な取組であり、20年度も引き続き計画に組み入れる予定。
静岡県		①県庁や県の出先機関を会場とした献血を定期的実施するなど献血に協力した。 ②献血協力団体「アボちゃん協会」に定期的に献血情報を提供する等一層の協力を求めた。	献血に協力しやすい環境整備が図られている。	
愛知県		企業等における献血推進のため、企業等の献血組織の育成に係る	貢献度の高い企業等の献血組織を対象に、知事表彰、感謝状の贈呈を愛知県献血推進運動大会等の席上で行う	組織的な献血者の確保
愛知県赤十字血液センター		年1回の献血協力を2回以上の協力を結びつける	従来からの献血回数を増やすことについては、組織内(社内)の合意が得にくい状況にある。	
三重県		①献血協力団体及び推進団体への複数回献血の協力依頼 ②献血実施場所の近隣企業への協力依頼 ③大企業、官公庁の献血実施時の通勤時の献血呼びかけ	①献血協力団体及び推進団体に複数回の依頼 ②献血実施場所の近隣企業への依頼 ③献血実施日の早朝、通勤時にティッシュを配布	
滋賀県		①市町による配車計画 ②献血推進協議会委員	①市町から企業に対しての集団献血の依頼。 ②献血推進協議会関係諸団体委員による事業所献血の推進。 ロゴマークの活用方法について具体例を示してほしい。また、ロゴマークについて、世間にもっとアピールする必要がある。	①一定量の血液の確保。 ②献血しやすい環境作りと献血のための休暇取得への配慮。
京都府		①事業所等への協力要請 ②移動採血車の配車体制の整備	安定的な血液の確保が図れるが、業務中断又は採血副作用の発生を理由に協力が得られない場合がある。	
京都府赤十字血液センター		①献血会場周辺企業に対する献血協力の推進 ②定期的な献血協力企業の確保(献血ルーム周辺)	①渉外活動を強化し、職域の400mL献血の年間計画に対し献血実績は103%となった。 ②献血ルーム周辺企業に定期的な献血依頼をし、11社の協力を得た。	
大阪府		◎企業等の講習会において献血への協力依頼を行った。	企業の職員の献血に対する理解が深まった。	今後とも、講習会等で献血協力の呼びかけを行っていく。
大阪府赤十字血液センター		①献血団体、献血推進団体(ライオンズクラブ等)の新規開拓、休眠開拓の実施	①新規(50団体)、休眠(4団体)	献血推進団体を通じて新規の献血団体の獲得を行っていく。

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
兵庫県	【企業等組織的な献血の確保について】	献血者の減少傾向がみられる夏季(8月)及び年末年始(12~1月)の期間を献血推進強調月間(期間)とし、この期間に、県内の主要企業・団体に対して協力要請している。平成19年度においても同様に実施する予定。	平成18年度実績 ・夏季 協力依頼団体等数 99 (うち献血会実施等 90) ・年末年始 協力依頼団体等数 143 (うち献血会実施等136)	職場献血における受付時間の調整、参加しやすい環境づくり
奈良県		各種団体への円滑な情報提供のため、地域と最も密接な市町村献血事務担当課職員研修を実施するとともに、経営者協会等各種既存団体への協力依頼による献血協力団体・企業の確保と、献血に功績のあった団体の表彰による献血推進組織の育成	研修の対象者や献血協力依頼の対象団体が、同じになりやすい。	献血協力団体・協賛企業の貢献についてもっとアピールするなど、高い社会的評価が得られるよう工夫して、献血協力に対する社会的意義を高め、企業等の献血への協力を強く誘引する。
和歌山県		献血に理解を示す企業・団体の確保 ・献血推進団体の献血に加え、関連企業及び新規協賛企業の確保を図る。 ・企業の献血担当者への継続的な関連情報を提供する。	新規協力企業の増加	献血担当者への情報提供により、献血の協力体制がとれる。緊急時に対応できる。
岐阜県		献血協力団体との協働、意見交換 ・ぎふ献血サポーターズクラブ(献血ボランティア団体及び企業の横断的組織)の支援	献血者減少時期における組織的協力の確保	継続実施

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
石川県	【上記以外(献血推進キャンペーンの実施等)】	◎①学生献血推進委員会による「七夕献血キャンペーン」を実施 ◎②各市町成人式会場での啓発資材、啓発リーフレットの配付	①献血者から患者さんへのメッセージを頂き、医療機関で掲示して頂いた。新聞報道がなされたこともあり、好評であった。 ②献血思想の普及啓発に寄与。	①好評のため、更に内容の充実を図ることを検討。 ②引き続き事業を継続していく。
福井県		①特に小中学生を対象に血液センターの見学を実施 ◎②平成18年度献血運動推進福井県民大会の開催	①将来の献血協力者への普及啓発。 ②第1部の献血功労者への表彰式に加え、第2部のアトラクションを実施。報道されることにより、献血の重要性のPR、功労者の励みになった。	20年度も引き続き計画に組み入れる予定。
静岡県		献血推進キャンペーン期間中にラジオ広報(スポット放送、献血情報の提供)を実施した。	幅広い県民への情報提供が行われた。	
愛知県		愛知県職員による献血の推進	献血環境の整備 ・職務専念義務免除の措置 ・県庁各部署あて献血実施の協力を文書で要請 ・夏季・冬季及び緊急時における官庁街献血の実施 ・官庁街献血実施日に庁内放送による献血協力の呼びかけを実施	組織的献血者の確保
三重県		①広報活動の強化 ②成分献血登録者の確保 ③型別献血の実施 ④献血推進体制の強化	①HP、ケーブルTV、新聞、FM放送等を活用 ②成分献血時に登録の依頼 ③不足時の血液型のみ緊急に協力いただける企業等の確保 ④県、血液センターによる市町献血担当課長会議の開催等	
京都府赤十字血液センター	①400mL献血推進キャンペーン実施 ②血小板献血推進キャンペーン実施 ③期間限定キャンペーン実績	①「ワンモア献血キャンペーン」として、400mL献血者にカードを配布し、再来を依頼。応諾率は20%以上あった。 ②「月・火・水献血キャンペーン」として、献血者数が少ない平日の3日間を対象に実施、月～水の献血者数が増加した。 ③3月限定で、過去1年間献血されていない献血者2500人を対象にハガキを郵送。応諾率は目標(10%)に届かなかった	①400mL・成分献血キャンペーンに関しては応諾率も良く、リピーター確保の面からも、今後も継続して行う。 ②期間限定キャンペーンを実施する場合、時期、期間、実施方法等を見直す。	
大阪府	◎①400mL献血推進のための「キャッチコピー」を全国から募集した。 ②大阪府献血感謝のつどいを開催した。	①3ヶ月の募集期間で、全国から4,191件の応募があり、特賞1作品、入賞5作品を選出した。 ②大阪府独自の献血推進月間である12月に開催し、府民の献血への理解が深まった。	毎年、献血推進啓発のための募集事業を実施する予定。	
大阪府赤十字血液センター	①春の1万人400mL献血キャンペーンの実施	実施期間: 3/16～5/30 参加人数: 約1,000人(3/16～3/31)	冬、春のキャンペーンを計画する。	

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
兵庫県	【上記以外(献血推進キャンペーンの実施等)】	学生献血推進協議会が実施するクリスマス献血キャンペーンに併せて街頭で献血の呼び掛けを行った。	神戸市内の3会場2日間で801名の献血受付があった。 ※献血者数 358名(うち400mLは278名)	若年層との協働
兵庫県赤十字血液センター		①リラックスマッサージ ②血液センター親子見学会	①献血ルームで14回実施、約200人が参加 ②2日間で児童、父兄73人が参加	
奈良県		献血運動啓発ポスター募集及び入賞者表彰と入賞作品の展示	広報誌等による県内在住・在学・在勤の幅広い年齢層の方への募集及び入賞者表彰と大型スーパー店内での展示により広く県民各層に献血運動をPRし、献血に対する理解を求めた。	献血への関心を高め、啓発効果のあるイベントの企画を図る。
和歌山県		①愛の献血助け合い運動キャンペーンの実施 ・人の多く集まる場所でのパンフレット配布啓発 ②二十歳のキャンペーンの実施 ・成人式でのパンフレット配布等の啓発 ③ 学生ボランティア協賛によるキャンペーン(夏・冬) ◎④夏・冬の献血ルームへの再来依頼 ◎⑤街頭献血での「1,000人400ml献血推進キャンペーン」の実施	①協力団体と合同での啓発、献血バス前での啓発等地域の状況にあわせ献血者を集めることができた。 ②県内の成人に対する啓発ができた。 ③学生ボランティアの参加で、献血の必要性をアピールし献血者の意識の向上により効果を上げた。 ④ダイレクトメールの送付によりリピーターを確保できた。 ⑤400ml献血の必要性をアピールできた。	効果のあった啓発方法により工夫をこらし、効率よく効果のある啓発を計画する。
岐阜県		①献血関連作品募集(標語) ②「献血感謝の集い」の開催 献血功労者の表彰とともに健康関連の講演を実施	県民に、献血について、より身近に感じてもらう	継続実施

(注) 内容については簡潔にとりまとめること。

(注) 「取組の概要」欄: 平成18年度新規事業に◎印を表示し、既存事業と区別すること。また、参考として、平成19年度新規事業についても併せて記載すること。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名 中国・四国地区

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成20年度計画作成に当たり参考となる事項
鳥取県	【若年者確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ○高校生ボランティアの参加・協力を得て「街頭献血キャンペーン」及び「研修会」の開催 ○高校生献血の推進 ○小・中学生を対象にした見学会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○総勢80名の参加があり、高校生自ら献血を行うなど効果的であった。 ○各高校を個別に訪問し、献血への理解と協力要請をおこなった。 ○夏休み中に血液センターで親子見学会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報媒体を活用した啓発
島根県		<ul style="list-style-type: none"> ○高校生献血出前講座や高校生ふれあいキャンペーン、高校生献血サマースクールの実施 ○はたちの成分献血啓発事業やはたちの献血キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○出前講座は高校からの要請がなく、実績がなかった。いずれの事業も、年々参加者が減少してきており、サマースクールについては高校側も実施が困難になってきていることから、平成19年度において、事業を見直すこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○若年層対策は、高校生に対するものが効果的であるが、各高校の受入れが困難となっており、生徒よりも学校管理者及び教職員への協力要請が必要と考える。
岡山県		<ul style="list-style-type: none"> ◎高校卒業生に対する献血の推進 ○幼・小児期からの献血教育の推進 ○高校生献血の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校を卒業する全生徒に対して、高校卒業時に400mL献血への協力を依頼する啓発チラシを配布した。 配布数:約20,000枚 ○夏休み期間中、小学生児童の親子を対象に体験教室を実施した。 県内431校の小学校に参加を呼びかけ、121校719名(保護者を含む)の参加があった。 ○厚生労働省や岡山県作成のパンフレットを活用したホームルーム活動等を実施した。 高校生の献血者数:1,650人(平成18年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ○400mL献血に対する知識の普及啓発が必要 ○幼・小児期からの献血知識の普及及び父兄への献血思想の普及が必要 ○正しい献血知識の普及啓発と献血思想の醸成が必要
広島県		<ul style="list-style-type: none"> ○高校生を対象とした献血の正しい知識の普及啓発 ○中学生・高校生を対象とした献血普及啓発ポスター図案募集 ○関係団体が実施する体験学習等への協力 ○若年層の関心を高めるための献血広報活動や献血ボランティア組織が実施する献血推進活動への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内高等学校を通して高校3年生対象にクリアファイルと献血啓発リーフレットを配布 ○広島県献血推進ポスター募集 応募総数280名(中学生185名、高校生95名) 入賞16点を選出 ○血液センター見学会「なるほど献血教室」共催 夏休み中の7月26～28日に開催 参加者272名(子供169名、保護者103名) ○中四国学生統一献血キャンペーン(8/15、17、18) 全国学生クリスマスキャンペーン(12/23、24) 広報支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○献血離れの著しい若年層献血者の確保と、献血意識の向上 ○若年層献血者を通じて保護者への啓発